

令和8年1月23日(金)14:00～@校長室

令和7年度 第3回学校運営協議会

出席者:西川 隆蔵委員長・染川 佳紀委員・浜田 佳樹委員・八木 元明委員・遠藤 真砂美委員・
校長・教頭・首席2名

- (1)校長挨拶
- (2)学校運営協議会委員の紹介
- (3)学校経営計画と取り組みについて、および本校の現状報告と今年度の取組について

<校長より>ppスライド(動画)をまじえて説明

■2026年度の中学校から入学希望調査と設備等充実について

- 堺東高校は240名募集で、1月の調査では希望者は240名。近隣他校と比較すると、私学と比してハードウェア(トイレ等)の差は著しい。2026年度末までには、トイレの洋式化100%(2025年度は府内の公立高校で和式便座率トップ、便器数トップであった)、食堂の冷暖房設置などハードウェアの充実を図る。本校の事業ではないが、本校前に歩道の新設が行われる予定。またHR教室や廊下の美装化を新年度以降に始める。
- ソフトウェア面の魅力化として、NZのヘンダーソン高校と姉妹校提携する予定。

■今年度の学校経営計画総括

- 「どの力を育てるか」
気が利く力(観察・想像・行動)を育てる。授業選択、進路選択、行事部活動などの学校活動において、必要な力と考える
- 探究・DX・AI&看護の充実・深化
探究(アントレプレナーシップ型探究の開始)・DX(情報Ⅱの開講)・AI(みんなぐ社のスクールAI導入)の深化、看護科において藍野短期大学に特別非常勤講師の提携を実施
- 生徒主導の広報戦略
文化祭と体育祭動画の作成を写真同好会に依頼

■令和8年度の重点項目

- 探究+DX with AI
問いを立てる探究学習から、自らの「夢チャレンジ」を行うプロセスの再強化
スクールAI(みんなぐ社)をもちいた教員・生徒の生成AI活用
- 教師の魅力の再構築

”素敵な先生に感化された、あこがれる先生・助けてくれた先生”に会えた経験から先生になった、という意見を重視し、全国の先生に会いに行ってほしい、視点を昇華してほしいという思いの実現

(4) 質疑応答・情報交換

■西川委員長 成果発表、プレゼン発表などの機会を設ける体験をふやすとよいのではないか。また最終結果を評価するだけではなく、中間発表やプロセスといった部分を重視したほうがよいとおもう。

□校長 昨日は、2年探究の課題研究の発表日であった。通例では、4～5人グループで発表するケースが多い。しかし、グループで取り組むと、グループ内での努力に濃淡ができる。そこで、2年では、全生徒がひとりで発表をおこなった。問題点は、1教員が指導する数に限界があること。担任だけでは手が足らず、副担任を投入しても人数不足の感がある。この解決策のひとつとしてAIをサブ先生として活用することができるのではないか。

□浜田委員 勤務校のとりくみとしても探究学習の充実をはかっている。これが進路実現に直結している。

■染川委員 探究という授業を、生徒が楽しみにしているのか？

□首席 自分の好きなことに対して取り組めることから、楽しみにしている生徒もいれば、調べ学習で終わってしまう、やらされ感のある生徒もいる。

■八木委員 探究学習のテーマとしてどのようなものがあるのか

□首席 多種多様である。校則の是非、現代アート、人のことについてなどが2年次では見られ、とくに学校側からも「縛り」を設けることはしなかった。

■浜田委員 総合学科ならではの探究学習のとりくみではないか。普通科では真似しにくい、とも感じた。

■八木委員 DX with AIは何を指しているか。DX化によって教師の業務負担軽減はできるのか。業務負担を軽減できるなら、それが理想であるし、その浮いた時間を使って生徒の直接ふれる時間をとってほしい

□校長 AIが使われるようになるにつれ、「宿題を出しにくい」感がある。AI丸抱えではなく、AIを相棒として使えるようになってほしい。

■八木委員 部活動の加入率はどれくらいか。部活動の加入率を増やす取り組みを充実できないか(例:昼休みの中庭ライブなど)

□首席 吹奏楽、ダンス、軽音楽といった団体は4月に中庭でライブをしている。部活動週間は設けている。

□教頭 先日、軽音部や文化祭の教員バンド活動を見て、学校説明会に何度も来る、といった生徒が見られた。

□染川委員 多様性の時代において、部活動の必要性はあるものの、部活動一本で広報活動を行うのは困難であると思う。いろいろなアプローチが先生に求められている。

■八木委員 トイレや食堂の改修はいつになるのか。歩道の新設について、横断歩道はつかないのか。

□校長 トイレや食堂改修のスケジュールは具体的には決まっていない。年度末の可能性もある。また、平日の授業中には実施しにくく、かつ府立高校いっせいに取り組むので、夏休み・冬休みの時期に集中する可能性が高い。ただし、2026年度中には終わる見込み。横断歩道については、学校側は知らされていない。

■遠藤委員 探究について、地域活動に関することでインタビューの依頼があった。冬休み期間に依頼を受けたが、高校生一人であった。ひとりなのに積極的で、アポイントをとるなど大変だったと思うが、学ぼうとする姿勢がうれしかった。

(5) 翌年度に向けて

■遠藤委員 サポートスタッフとしても、堺東高校に来ているが、生徒はのびのびと楽しく通っていると感じる。支援学級のあたたかいサポートをつづけてほしい

■八木委員 クラブ活動の活性化、増えるようなPRをおこなってほしい

■浜田委員 同窓会幹事として、堺東高校から教員を目指す人がふえれば嬉しいと思う

■染川委員 公立高校それぞれ「色」を出していく必要があるように思う

■西川委員長 探究+DX with AIを実施し、ブランディングに成功してほしいと思う。また、2年次の発表テーマを見たが、AIに探究テーマをもとにキーワードの抽出を行えば、生徒の意識・傾向・ニーズ等が可視化できると思うので、ぜひやってほしい。

(6) 連絡事項

■次回以降の開催について連絡

(7) 閉会